

## メッセージアウトライン ローマ16：17～20「最後のすすめ」

[17]「兄弟たち。私はあなたがたに願います。あなたがたの学んだ教えにそむいて、分裂とつまずきを引き起こす人たちを警戒してください。彼らから遠ざかりなさい」

「願います」と訳されていることばは 原語では「勧告する」「勧める」という強い意味がある。ここでは彼らを警戒し、遠ざかるようにとの強い勧めがなされている。彼らは、①ローマのクリスチャンたちが学んだキリストを信じる信仰によって義とされ救われるという信仰義認の教えにそむくことを教える。②分裂とつまずきを引き起こす。

彼らは偽教師であり、キリスト教の歴史上絶えず出てくる異端である。→マタイ7:15、使徒20:29~30

[18]「そういう人たちは、私たちの主キリストに仕えないで、自分の欲に仕えているのです。彼らは、なめらかなことば、へつらいのことばをもって純朴な人たちの心をだましているのです」

ここで使われている「仕える」ということばは、奴隷として仕えるという意味。彼らはキリストにではなく、自分の欲望や本能の奴隷となって生きており、ことばたくみに純朴な人たちをだますのである。

[19]「あなたがたの従順はすべての人に知られているので、私はあなたがたのことを喜んでいます。しかし、私は、あなたがたが善にはさとく、悪にはうとくあってほしい、と望んでいます」

ローマのクリスチャンの多くは素朴で従順な人々であった。パウロはそのことを喜んでいるが、一方で、彼らがだまされ欺かれることを心配している。それゆえ彼は彼らが「善にはさとく」すなわち、善いことについてはよく理解して賢く実行に移し、「悪にはうとく」すなわち、悪に近づかず、取り入れず、悪賢くならないようにと望んでいるのである。→I コリント14:20

[20]「平和の神は、すみやかに、あなたがたの足でサタンを踏み砕いてくださいます。どうか、私たちの主イエス・キリストの恵みが、あなたがたとともにありますように」

パウロは偽教師や異端として活動する者たちにサタンの働きを見ている。しかし、神はそのような者たちをすみやかに踏み砕いて勝利を与えてくださる。神は天地万物の創造主であり、主権者であり、その権威と力をもって教会に真の秩序を与えてくださる平和の神である。「あなたがたの足で」とは、神はクリスチャンたちを用いてサタンの働きを砕かれるということで、事実、キリスト教の歴史を見ると異端や偽教師たちに対して、護教家、弁証家、教父といった人々が立ち、彼らの誤った教えを論駁し、粉碎していったことがわかる。どのような問題が起こって来ても神が勝利と平和を与えてくださるのである。現代に生きる私たちもこの神により頼みつつ、どのような問題や誤った教えにも対処し、健全な信仰と生き方をもって世に良い証しをしていく者になりたい。

20節後半はパウロの祝福の祈りである。